

加古川中流圏域河川整備計画 第四回懇談会

＜ 議 事 要 旨 ＞

日 時 平成23年12月28日(水) 9:30～12:00
 場 所 兵庫県社総合庁舎 別館4階会議室
 出席者 約50名(委員9名、事務局19名、関係機関12名、一般傍聴6名)

	氏 名	所属・役職等	出欠
学識経験者	もりつ ひでお 森津 秀夫	流通科学大学 教授	
	おくら しげる 小倉 滋	三木市自然愛好研究会 世話役	
	かんだ けいいち 神田 佳一	明石工業高等専門学校 教授	
	こばやし たくろう 小林 拓郎	西脇市動植物生態調査研究グループ 代表	
	たきはら つとむ 瀧原 務	加東市文化財保護審議会 委員	-
関係団体	おおむら い さ お 大村 伊三夫	東播用水土地改良区 理事長	
	なしき しずお 梨木 静夫	加古川漁業協同組合代表理事 組合長	
地場産業	き し なおと 来住 尚登	兵庫県繊維染色工業協同組合 理事長	
	たじり ただし 田尻 忠	兵庫県釣針協同組合 理事長	
	なかがわ あきのり 中川 明紀	播州釣針協同組合 理事長	

(敬称略 順不同)

	氏 名	所属・役職等	出欠
事務局	尾原 勉	北播磨県民局 加東土木事務所 所長	
	谷田 登志晴	北播磨県民局 加東土木事務所 副所長	
	西倉 洋一	北播磨県民局 加東土木事務所 多可事業所 所長	
	恒藤 博文	県土整備部 土木局 総合治水課 計画係 係長	
	石原 純	県土整備部 土木局 総合治水課 計画係 主査	
	木村 浩之	県土整備部 土木局 河川整備課 治水係 係長	
	出見 恭行	県土整備部 土木局 河川整備課 治水係 主査	
	山口 一哉	北播磨県民局 加東土木事務所 河川砂防課 課長	
	中村 雅彦	北播磨県民局 加東土木事務所 河川砂防課 課長補佐	
	関 正造	北播磨県民局 加東土木事務所 河川砂防課 課長補佐	
	橋本 良平	北播磨県民局 加東土木事務所 河川砂防課 職員	
	横山 耕	北播磨県民局 加東土木事務所 復興事業課 課長	
	竹中 修平	北播磨県民局 加東土木事務所 復興事業課 課長補佐	
	玉水 通則	北播磨県民局 加東土木事務所 多可事業所 課長	
	野邊 正彦	北播磨県民局 加東土木事務所 多可事業所 課長補佐	
	井上 薫	神戸県民局 神戸土木事務所 河川課 課長	
	木田 泰稔	阪神北県民局 宝塚土木事務所 三田業務所 課長	
	松井 康司	丹波県民局 丹波土木事務所 河川砂防課 課長	
中村 亘	丹波県民局 丹波土木事務所 河川砂防課 職員		

(敬称略 順不同)

	氏名・所属・役職等
事務局補助	田淵 昌之、常森 達矢、牧 俊行、坂本 奈穂 ((株)建設技術研究所)

	関係機関名	氏名・所属・役職等	出欠
関係機関	国土交通省	近畿地方整備局 姫路河川国道事務所 調査第一課 田中課長	
		近畿地方整備局 姫路河川国道事務所 調査第一課 上月係長	
	神戸市	建設局 北建設事務所 藤本主査	
	西脇市	建設総務課 飛田課長	
	三木市	西山技監	
		まちづくり部 道路河川課 米村課長補佐	
	小野市	森本技監	
		地域振興部 道路河川課 喜始課長	-
	三田市	都市整備部 整備室 道路河川課 本荘課長	
	加西市	都市開発部 土木課 中川部次長兼課長	
	篠山市	まちづくり部 地域整備課 近成課長補佐	
	加東市	堀田技監	
		建設部 土木課 利山課長	
	多可町	上田技監	
建設課 山口課長			

(敬称略 順不同)

議事概要

1. 開会挨拶

: 加東土木事務所 尾原所長

2. 出席者の紹介

(1) 懇談会委員の紹介：各委員 自己紹介

(2) 事務局の紹介

3. 議事 1 (懇談会運営について)

(1) 加古川中流圏域河川整備計画懇談会の設置要綱、傍聴規程、情報公開要領(案)

: 事務局説明

4. 議事 2 (これまでの経緯等について)

(1) これまでの経緯、過去の懇談会、それから地域ブロック懇話会の概要：事務局説明

(2) 平成 16 年 10 月台風 23 号災害対策の概要と効果：事務局説明

(3) 平成 23 年 9 月台風 12 号・15 号による被害について：事務局説明

(4) 討議

1) 平成 16 年 10 月台風 23 号災害対策の概要と効果について

- ・ 平成 16 年の台風と昭和 58 年の洪水について既往最大雨量や流量の比較に関しては、総雨量はほぼ変わらないが、雨の降り方が違ったために板波の水位が 2 m 弱違うということか。(神田委員)
- ・ 雨の降り方の特徴としては、昭和 58 年は篠山川流域で、平成 16 年は本川上流が(丹波地域)で降った。雨量は、西脇、加東市付近では、平成 16 年と昭和 58 年でそれほど違いがなく量も多くはなかったが、本川上流(丹波市域)では、平成 16 年の方が昭和 58 年を大きく上回り(既往最大の 273 ミリを記録)集中的に降ったことで下流側に一気に流下し急激に本川の水位が上がった。(事務局)
- ・ 昭和 58 年から平成 16 年の約 20 年間で流況が変わり、流出時間や損失量が非常に変化したと思う。(神田委員)
- ・ 本川上流域(丹波市域)は、篠山川流域と比較して山地溪流・渓谷等が少なく、地形的にも流出量が多い。また、加古川本川等では各種井堰の改築や護岸の整備等、改修事業が進んでいる関係で、流出時間が短くなっている。(事務局)
- ・ 今後の計画では、流量の流域による違いを考慮し、昭和 58 年あるいは平成 16 年当時推定のモデル定数も見直し、計画に沿った予測できる解析手法でやって頂きたい。(神田委員)

-
- ・ 平成 16 年の激特の災害復旧は、現在の状態でほぼ完成であるか。整備にあたって「昔の河畔林の再生」は考えているか。(小林委員)
 - ・ 災害復旧は、現在全体の九十数%の進捗である。杉原川・野間川の一部の改修を今年度実施してほぼ改修が終わる。今回の河川改修事業では、従来の河畔林の復元まで行う予定はないが、今後生えてくるのを特に阻害する構造にはしていないので、いずれ生えてくる可能性はある。(事務局)

2) 平成 23 年 9 月台風 12 号・15 号による被害について

- ・ 加古川の本流・支流の台風 12 号の災害復旧工事に全面的に協力したいと思っている。しかし、現在下流では、漁業で生計を立てている者がいるにも関わらず、魚類に配慮した工事がされていないため、工事業者と揉めている状況にある。工事業者には厳しい指導をして頂き、円満に早く工事が完成するようによりしくお願いしたい。(梨木委員)
- ・ 今後、発注して工事する際に、今までどおり事前協議をできるだけ行い、それぞれに協議し合いながら早い復旧をやっていきたいと考えている。(事務局)

- ・ 武庫川水系や三田の川辺りは沢山オオサンショウウオがおり、加古川でも上流部はサンショウウオが多く生息していると思う。このような調査の実施について工事との関係や連絡体制等をお聞きかせ頂けたらと思う。(小倉委員)
- ・ 美囊川と加古川の合流点は、流量増加時に上流が水没したという話を聞いている。河床掘削等はどのように連携して実施しているのか。(小倉委員)
- ・ 加東土木(当時は社土木)が 1993 年に水辺の環境調査をやっている。その後も環境調査を実施しており、このような動植物の生育・生息状況を基に今後の河川整備計画の策定に反映していく。また、計画前に重点調査も必要と考えている。(事務局)
- ・ 美囊川・加古川合流点の堆積土砂掘削は、通常の維持管理と認識している。かなり堆積土砂があるため、近い時期に掘削の必要はあると考えており、関係部署と調整しながら進めていく。(事務局)

- ・ 平成 16 年・23 年の台風時の降雨の累積状況は大きく変化していないのに被害が大きい理由として、特に山林開発による保水力の低下や圃場整備事業における用排分離体制が考えられる。現状には限度があり、動植物の生息状況、生態系の問題、漁協の問題等の課題もあるが、最も実施すべきは堤防の拡幅や河床切り下げ等で流量を稼ぐことである。(大村委員)
- ・ 東条川の上流のダムでは、毎年、梅雨時期や台風の時期、非常に雨がよく降り水かさが増す。もう少し早目に放流して頂けたら災害も少し減ると思う。(田尻委員)
- ・ 降雨状況と降雨後の農業用水への供給状況を予測しながらダム放流をしていると思う。増水頻度はダムによって少なくなっていると思う。(大村委員)

2. 議事 3 (加古川中流圏域河川整備計画(原案)について)

(1) 第1章は河川整備計画の目標に関する事項(第1節、第2節): 事務局説明

(2) 討議

1) 河川整備の現状と課題について

- ・ 当組合では、上流域でかなり大きな被害が出た。杉原川は激特の効果と思われるが、流速が早くなりそのおかげで下流の方は被害を免れたようである。上流はまだ工事が進展していないようだが、非常に川の深さが浅くなっているのも、何とか浚渫してほしい。(来住委員)
- ・ 激特事業については、増水すると若干、水に濁りが生じたり、渇水期には取水しにくくなる影響が出る等、非常に不安定な取水状況になるので、今後は安定的な取水ができるようをお願いしたい。(来住委員)
- ・ このような災害が起きると、地場産業全体に大きな影響が出る。河川工事で対策を講じて頂くと同時に、我々も自立的な対策を今後考えていかななくてはならない新しい局面に入ってきたという認識でいる。(来住委員)
- ・ 激特事業の河積の拡大や堤防の護岸の整備等により、従来に比べ流れやすくなり、流速が若干早くなった。杉原川・野間川からの本川への合流が、従来に比べるとわりとスムーズになったことで、杉原川上流域はまだ未改修であるが、影響されて若干流速も早くなり、洪水も少なくなったという効果が出ている。(事務局)
- ・ 河川改修によって、若干地下水の流れに影響が出ている所もあると思われるが、工事も終焉に近づき、水質等が改善されてきている結果も出てきており、工事による影響は徐々に少なくなってきた。また、井戸周辺の改修工事後の地下水の状況を継続して監視させて頂き、また対応が必要であれば今後も考えていきたい。(事務局)

2) 流域および河川の概要について

- ・ 築堤河川の両側で低い住宅地がある。堤防より低い背後地を示した地形図は作成できないか。また、その前後の河川の河積や流下能力を示した図面があれば役立つのではないか。築堤河川の周辺部で洪水の多い所には、休耕田を活用するという方法はどうか。(小林委員)
- ・ 森林の保水力の低下や、最近非常に多い豪雨後の干ばつという異常気象への対応として、長期展望を持った抜本的な対策も可能であればして頂きたい。(小林委員)
- ・ 築堤河川に関しては我々も把握している。内水の問題は各市町も認識していると思うので、関連資料の整理は可能である。(事務局)
- ・ 加古川は、日本でアユを一番早く解禁する川で、日本で一番、アユの毛針産業が盛んな地区だったが、年々河川が荒れ、水質悪化により天然遡上が絶え、毛針製作者にも影響が出ている。水質悪化の原因は、山林開発や、水田の泥水・肥料だと思う。(中川委員)
- ・ 川の本来の姿として、砂利とか大きな石とかがいっぱい詰まった河床(石の原っぱ)があった。加古川本流の黒田庄の津万井堰については、立派な井堰ができ、洪水の度に砂利がある一部に溜まるが、これも自然の形であると思うので、今後設計する時にそのような

現象を、図面を製作される方は参考にされたいと思う。(中川委員)

2. 議事 4 (今後のスケジュールについて)

(1) 今後のスケジュールについて：事務局説明

(2) 討議

- ・ 意見なし(了承して頂いた)

2. 閉会挨拶

: 加東土木事務所 多可事業所 西倉所長
以上